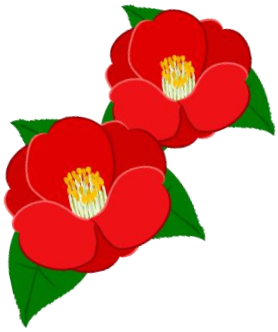
真野小だより

児童数：４６３名
Ｎｏ．１４
令和４年１１月１６日発行

学校教育目標『あかるく　やさしく　たくましく』

数値に表れない大切な力



暦の上では冬の始まりを告げる立冬が過ぎ、朝晩随分冷え込むようになりました。朝晩と日中との寒暖の差が激しくなり、体調管理に十分注意が必要です。

さて、今回は「非認知能力」について考えてみたいと思います。「非認知能力」は、学力テストなどの数値に表れない力で、目新しいものではありませんが、「社会の中で生きて働く力」としてその重要性が再認識されています。非認知能力には、「自己の力」と「社会性の力」の２つの面があり、前者は、自分を大切にすることや高めようとすることなど「自己の心に関わる力」です。行動をコントロールする自制心や、自ら考え行動する自律心などがあれば、やり抜く力や頑張る力も高まり、少し難しい学習課題や苦手なことにも取り組むことができます。その結果、認知能力も高まると考えられています。後者は、他者と協働する力や規範意識、道徳性、思いやりなど、「人と関わり合う力」であり、グローバル化や価値観が多様化する社会の中で生きていくために重要な力となります。

それでは、非認知能力を高めるにはどうすればよいかと言うと、学校・家庭・地域において子どもたちの知的好奇心を高める場面をたくさん仕掛けることが大切だとされています。とは言え、いつもいつも特別なところへ行ったり、体験したりすることはできません。大人が子どもたちの楽しめるような状態をその都度用意周到に準備するのではなく、子どもたちが自由な発想で工夫できるものを準備したり、そういった時間を確保したりすることで、子どもたちはその過程で様々な発見をし、知的好奇心を高め、さらなる追求やチャレンジをしていきます。

また、授業の中に話合い活動などの時間を取り入れることで、友だちの気付きや考えから自分の考えを深めていきます。目的意識（めあて）や見通しを持って学習や行事に取り組み、また、その取組を振り返ることにより、非認知能力の「自己の力」を少しずつ育んでいきます。ここでもう１つ大切なことは、「以前より少し良くなったね」とスモールステップを褒めることや、子どもが失敗しても大丈夫と思えるような環境づくりです。２学期も残すところ１か月余りとなったこの時期、失敗しても大丈夫、１つ１つの積み重ねが成長につながっているのだと子どもたち自身が実感できる環境づくりについてもう一度見直していきたいと思います。

人権週間

１９４８年１２月１０日、国連において世界の全ての人々と全ての国々とが達成すべき共通の基準として「世界人権宣言」が採択され、１２月１０日を「人権デー」とし、世界中で人権擁護活動を推進するための行事が行われています。法務省人権擁護機関では、１９４９年から毎年１２月１０日を最終日とする１週間を「人権週間」と定め、人権啓発活動を展開しています。

真野小学校では、１２月１日から８日までを「校内人権週間」とし、人権に関する道徳の授業や作品づくりを通して、子どもたちの人権意識を高める取組を実施して参ります。

6年修学旅行（11月9日・10日）

３年ぶりの泊を伴う修学旅行でした。６年生は４年生の森林環境学習、５年生のフローティングスクールがコロナの影響で日帰りでした。小学校で初めての宿泊を伴う体験学習でした。

１日目は、水茎焼で自分だけのコップやお皿の製作、彦根城見学、滋賀県平和祈念館での平和学習、琵琶湖コンファレンスセンターで宿泊、２日目は博物館「明治村」で過ごしました。

4年校外学習　信楽（11月8日）

1年校外学習　びわ湖こどもの国（11月11日）

随時更新しています！真野小学校Webページをご覧下さい！

学校行事や学習の様子を随時紹介しています。是非ご覧下さい。

真野小学校　検索

ＵＲＬ：http://www.otsu.ed.jp/mano-e/